

優しく、しなやかな輪で抗う 反貧困・駆け込み大相談会

谷口 太規 (弁護士、法テラス埼玉法律事務所)

3月21日(22日)に大宮ソニック前の公園で反貧困・駆け込み大相談会がもたれました。関わってくださったボランティアの方は500名を超え、相談に訪れた方の数は延べ227人となりました。うち約65名が生活保護申請を行い、多くの方が既に住居を見つけ、生活保護決定を待つて新しい生活に踏み出そうとしています。相談会の準備の過程では、何もないところから始まって、さまざまな人が、それぞれの得意分野・バックグラウンドを活かして、怒濤のように相談会を築き上げていくところを目の当たりにし、人々の力が結集した時のすごさを感じて驚きました。

2日目には、大変な強風という悪天候の中、多くの人たちがテントの支柱を支え、倒壊を防いでくれました。容赦なく吹き続ける強風は、まるで現在社会を襲っている不況の嵐のようでした。その風は、行政の建物が多く入っている隣のビルの影響で、さらに増幅されているように思いました。

しかし、突貫工事で建てられた仮設のちっぽけなテントは、ボランティアの人々の手によって、しっかりと支えられ、当事者の方々の来られる相談ブースは揺らぐことなく、守られ、安心できる空間ができていました。このようにしなやかな方向に押し流されていきそうな社会の中でも、人々が手を結び、優しく、しなやかな輪で、これに抗うことができることを表す一つの光景であったように思います。

当事者の方も支える側に

テントを支える人たちの中には、相談に訪れた当事者の方も多く含まれていました。1日目、緊急求職者サポートセンターでの座り込みの行政交渉の末、カプセルホテルに宿泊せざるを得なくなった男性のうちの一人は、2日目の朝来場するなり、ボランティア受付に並んでいました。「あれ、黄色いリボンをつけてどうされました？」と私が聞くと、「今日くらい何か恩返しをしないと」と、と男性ははにかみながら答えました。

1日目相談に来られた時には、不安と猜疑に覆われたような表情をされていた方でした。貧困、仕事からの疎外、家族からの疎外、そして社会からの疎外、そうしたものが形成した彼の孤独は、1日目の夜、自分のその日泊まる場所の確保のために、多くの人たちが座り込み、声をあげ、闘ってくれた、その事実によって少し和らぐことができたのかもしれない。そして、2日目、彼は自分以外の誰かのために、何かをしたいと思い、ボランティア受付に並び、テントを支えました。

連鎖する貧困・孤独

貧困は連鎖します。それは人を孤独にします。しかし、私たちは、貧困に抗う手段を知っています。優しさや他者への共感もまた連鎖することを知っているのです。反貧困、それは人々を分断し、孤独にしようとする流れに抗い、結ばれた人々の手にほかならない、そんなことを改めて教えてくれた二日間でした。